

じゃらん宿泊旅行調査 2021



2020年度に国内宿泊旅行を実施した人は31.2%、2019年度より22.4ptの減少。
都道府県別来訪者数は初めて北海道が1位に。旅の近場化・短期化・分散化が進む。

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）の観光に関する調査・研究、地域振興機関『じゃらんリサーチセンター』（センター長：沢登 次彦）は、全国1万5,719人の宿泊旅行者を対象に「じゃらん宿泊旅行調査 2021」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行実態（出張・帰省・修学旅行などを除く）を調べるもので、今年で17回目となります。2020年度（2020年4月～2021年3月）の主な結果は以下の通りです。

国内宿泊旅行実施率、延べ宿泊旅行者数、延べ宿泊数推計（→P3）

- 2020年度の宿泊旅行実施率は31.2%、2019年度より22.4pt減少と大幅に減少し、2005年の調査開始以来、過去最低値。特に35～49歳女性（27.1%）で25.0pt減少と減少幅が大きい。
- 年間平均旅行回数（2.48回）、1回の旅行あたりの平均宿泊数（1.75泊）は大きく減少せず。延べ宿泊旅行者数は7,256万人回（前年度比46.5%減）、延べ宿泊数は1億2,687万人泊で2019年度からほぼ半減した。

宿泊旅行の費用総額（→P4）

- 宿泊旅行にかけられた費用総額は3兆7659億円、前年度より53.6%減。
- 1回の宿泊旅行にかかった費用（大人1人あたり）は平均5万1,800円、2019年度より8,000円減少。総額では宿泊・交通費、現地消費ともに減少しているが、個人旅行における宿泊費は前年度より1,100円の増加。

都道府県別の延べ宿泊旅行者数と居住地別の県内旅行率（→P5）

- 延べ宿泊旅行者数1位は北海道。調査開始以来1位を維持していた東京都は2位に。
- 県内旅行率1位は北海道（76.7%）。県内旅行率が大きく上昇したのは秋田県（61.0%、対前年度比+54.9pt）。

宿泊旅行の同行者、旅行日（→P6）

- 「夫婦二人での旅行」が29.7%を占め、次いで「一人旅」が17.8%。「夫婦二人での旅行」は2019年度から4.5pt上昇、「恋人との旅行」（9.4%）も1.2pt上昇する中、「友人との旅行」（9.9%）が2.6pt低下。
- 「夏休み・GW・年末年始等の長期休暇を利用した旅行」（12.4%）が7.5pt減少。旅行日の分散化が進んだ。

テーマ別 都道府県魅力度ランキング（P8～P10）

- 総合満足度1位は沖縄県、テーマ別でも9部門中、7部門で1位を獲得。
- 「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」は4年連続で石川県が1位。

Go Toトラベルキャンペーンの利用実態（P11）

- Go Toトラベルキャンペーン（GTT）期間中に実施された旅行のうち、キャンペーンを利用した旅行は7割。
- 利用者のうち「GTTがあったから旅行した」と回答した人は47.3%、「GTTがあったから高い宿・商品にした（増額した）」人は36.9%。増額した金額は、1回の宿泊旅行あたり平均1万1,900円。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

◎調査方法 インターネットによる調査

■1次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した
- ②調査時期 2021年4月1日（木）～2021年4月22日（木）
- ③調査対象 全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④配信数 180万7,794件
- ⑤調査内容 2020年度（2020年4月～2021年3月）1年間の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態
- ⑥回収数 12万3,597件（回収率6.8%）
- ⑦1次調査 集計対象者数 2万件
 - ※2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した
 - ・配信数と割付について
 - 2次調査のセル別目標回収数は、「平成27年 国勢調査」の都道府県別、性・年代別の人口におおむね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割り付けて配信した
 - ランクごとに6:5:3:2:1の割合で、合計約1万5,400件の回収を目標とした
 - ・2次調査の配信数について
 - ウェイトバック値のバランスをなるべくそろえるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者3万8,639件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した
 - ※回収された12万3,597件のうち都道府県別、性・年代別に割付を行い2万件を抽出性・年代別宿泊旅行実施率を算出

■2次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した
- ②調査時期 2021年4月8日（木）～2021年4月22日（木）
- ③調査対象 3万8,639件（うち、同居家族モニター304件）
 - ・1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人：3万8,335件
 - ・追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：304件
 - ※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した
 - 追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として、該当家族が同席する上で回答という条件で実施した
 - （回収数2万件<配信数25万2,817件 回収率7.9%>、2次調査対象者数304件）
- ④配信数 2万9,262件（うち、同居家族モニター128件）
 - ※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付に合わせてランダムに抽出した
- ⑤調査内容 昨年度1年間に実施した全ての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した
- ⑥回収数 1万5,791件（回収率54.0%）
- ⑦有効回答数 1万5,719件（うち、同居家族モニター84件）
 - （旅行件数ベース2万8,218件）

2020年度の1年間に宿泊旅行（※1）を実施した20～70代の割合は31.2%、前年度より22.4pt減少。実施者における年間平均旅行回数は2.48回と微減、1回の旅行あたりの平均宿泊数は1.75泊でほぼ変わらず。実宿泊旅行者数の推計値は2,925万人で前年度より41.9%減。延べ宿泊旅行者数（※2）は7,256万人回（前年度比46.5%減）、延べ宿泊数（※3）は1億2,687万人泊（前年度比48.0%減）でほぼ半減した。宿泊旅行実施率はいずれの属性においても大幅に減少しているが、特に35～49歳女性で25.0ptと大きく減少した。

■ 延べ宿泊旅行者数の推計方法

	R1年10月1日 現在人口推計	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行 実施率 (%) 	宿泊旅行 実施者の 年間平均 旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行実施者 の1回の 旅行あたり 平均宿泊数 (泊) <D>	実 宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ 宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ 宿泊数 (万人泊) A*B*C*D
(2020年度) 全国20～79歳男女	9,388	31.2	2.48	1.75	2,925	7,256	12,687
	前年度との差→	▲ 22.4	▲ 0.22	前年度との差→	▲ 2,106	▲ 6,318	▲ 11,706
				前年度比→	▲ 41.9%	▲ 46.5%	▲ 48.0%
(2019年度) 全国20～79歳男女	9,388	53.6	2.70	1.80	5,031	13,575	24,393
(2018年度) 全国20～79歳男女	9,408	56.4	2.78	1.78	5,310	14,777	26,416
(2017年度) 全国20～79歳男女	9,438	55.6	2.78	1.76	5,244	14,556	25,646
(2016年度) 全国20～79歳男女	9,475	54.8	2.77	1.76	5,188	14,358	25,308
(2015年度) 全国20～79歳男女	9,498	56.4	2.86	1.75	5,358	15,313	26,903
(2014年度) 全国20～79歳男女	9,520	56.9	2.79	1.68	5,420	15,110	25,397
(2013年度) 全国20～79歳男女	9,557	57.5	2.84	1.60	5,491	15,599	24,972
(2012年度) 全国20～79歳男女	9,598	55.8	2.71	1.61	5,354	14,505	23,445
(2011年度) 全国20～79歳男女	9,646	57.6	2.64	1.63	5,561	14,686	23,987
(2010年度) 全国20～79歳男女	9,672	56.7	2.73	1.64	5,489	15,020	24,686
(2009年度) 全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
(2008年度) 全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
(2007年度) 全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
(2006年度) 全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
(2005年度) 全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
(2004年度) 全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

- ※1 宿泊旅行：国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く。ただし、友人・知人宅、車中泊、キャンプなど宿泊施設を利用しない場合でも宿泊を伴う旅行であれば含める
 - ※2 延べ宿泊旅行者数（万人回）：推計人口 × 宿泊旅行実施率 × 宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数
 - ※3 延べ宿泊数（万人泊）：延べ宿泊旅行者数 × 宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数
 - ※4 宿泊数の設問形式を2014年度から変更。主なエリアの宿泊数と他エリア、他の都道府県の宿泊数を分けて尋ね、それぞれ合算して平均宿泊数を算出。よって、2013年度以前の平均宿泊数、延べ宿泊数（斜体の部分）は直接は比較できない参考値
 - ※ 人口について次の統計値を用いて調査を行っている。2020年度においては推計時未発表だったため、R1年の推計値を使用した
- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 2020年度：2019年度：R1年10月1日現在人口推計 | 2018年度：H30年10月1日現在人口推計 |
| 2017年度：H29年10月1日現在人口推計 | 2015年度：H27年国勢調査<速報> |
| 2014年度：H26年10月1日現在人口推計 | 2012年度：H24年10月1日現在人口推計 |
| 2011年度：H23年10月1日現在人口推計 | 2009年度：H21年10月1日現在人口推計 |
| 2008年度：H20年10月1日現在人口推計 | 2006年度：H17年10月1日現在国勢調査人口 |
| 2005年度：H16年10月1日現在人口推計 | 2004年度：H15年10月1日現在人口推計 |

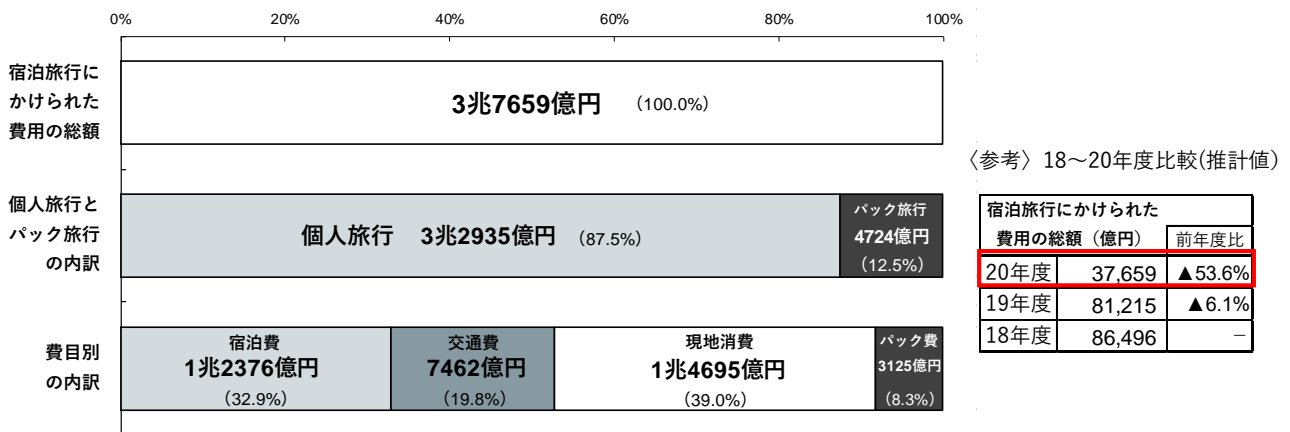
■ 性・年代別宿泊旅行実施率の推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
全国20～79歳男女	65.4	66.1	64.7	63.8	63.1	60.3	56.7	57.6	55.8	57.5	56.9	56.4	54.8	55.6	56.4	53.6	31.2
20～34歳 / 男性	62.5	61.4	61.0	61.8	60.6	57.0	53.2	57.2	52.8	51.3	54.1	53.8	51.7	54.8	56.2	55.1	35.7
20～34歳 / 女性	68.0	66.7	67.1	66.3	66.8	65.0	61.3	64.0	62.3	64.0	64.3	61.9	60.3	60.5	64.3	61.4	39.1
35～49歳 / 男性	61.9	62.2	60.4	60.1	59.6	56.9	53.6	53.0	51.8	53.1	53.7	53.4	52.0	53.3	53.5	53.5	31.4
35～49歳 / 女性	62.6	64.8	61.5	58.9	58.7	57.8	53.6	55.9	53.7	56.3	55.3	54.8	53.8	55.5	56.2	52.1	27.1
50～79歳 / 男性	63.8	67.4	64.8	64.7	63.2	59.9	55.1	55.9	54.4	57.6	56.2	55.6	55.0	54.7	54.8	51.4	30.2
50～79歳 / 女性	70.3	69.7	69.2	67.3	66.5	63.1	61.2	60.2	59.0	60.3	58.5	58.6	55.6	56.1	56.8	52.9	29.2

宿泊旅行の費用総額

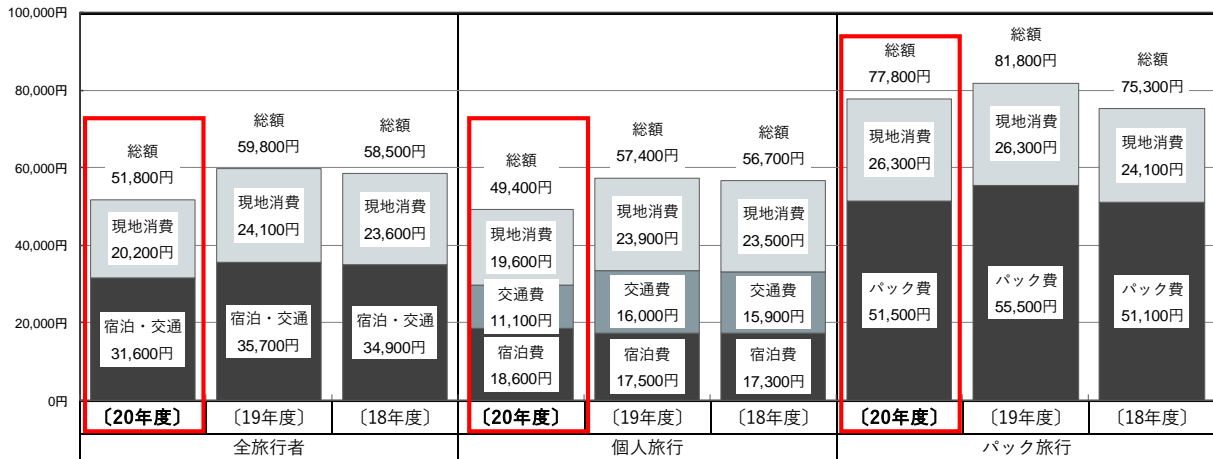
宿泊旅行にかけられた費用の総額は、推計で3兆7659億円。2019年度と比較すると53.6%の減少。1回の宿泊旅行にかかった費用は、平均で5万1,800円。2019年度と比べて8,000円の減少。宿泊・交通費は3万1,600円で2019年度より4,100円の減少、現地消費は2万200円で3,900円減少した。個人旅行で見ると総額では4万9,400円で前年度より8,000円減少しているが、宿泊費だけは前年度より1,100円増加している。パック旅行については現地消費は2万6,300円で前年度から変化がなかったが、パック費が5万1,500円で、前年度より4,000円減少した。

■ 宿泊旅行にかけられた費用総額（推計値）



■ 1回の宿泊旅行にかかった費用（大人1人あたり）

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合がある



< 全国の宿泊旅行費用総額の推計方法 >

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法（個人orパック）別の旅行費用の平均値（単価）を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

〈参考〉 18～20年度比較

1回の宿泊旅行にかかった費用	前年度比
大人1人あたり (円)	
20年度	▲13.4%
19年度	2.2%
18年度	-

※5 1回の宿泊旅行にかかった費用（大人1人あたり）・・・1回の宿泊旅行にかかった費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地消費の合計。パック旅行の場合、1人あたりのパック費・現地消費の合計

20歳未満の子供を連れた旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の人数で割っている

※6 個人旅行・・・個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む

※7 現地消費・・・旅行中に、現地で消費した費用の合計。買い物、飲食、体験・観光、移動など、28項目の中で、実施した行動の費用の合計を指す。ただし、宿泊プラン・ツアーに含まれていた費用は除く

都道府県別の延べ宿泊旅行者数と居住地別の県内旅行率

都道府県別の延べ宿泊旅行者数が最も多かったのは北海道で、調査開始以来初の1位を獲得。過去1位を維持していた東京都は2位に。トップ10の全体に占める割合は46.9%となり、2019年度と比べると6.2pt低下。21位以下・計の構成比が拡大する形となり、旅行者数は減ったが、地域の分散化は進んだといえる。ブロック別に見た場合も、いずれのブロックにおいても旅行者数が減少しているが、比較的ブロック内の旅行は減少幅が小さく、中四国や沖縄ではブロック内旅行が増加している。居住県内旅行率では北海道が1位。前年度との増減差では、秋田県が最も居住県内旅行率が上昇した県となった。

■ 都道府県別の延べ宿泊旅行者数（推計値） ※上位10都道府県

全体							増減傾向			
2020年度 推計値	順位変動	2019年度 推計値	2018年度 推計値	2017年度 推計値	2016年度 推計値	20→19	19→18	18→17	17→16	
全 国	7,256万人		13,575万人	14,777万人	14,556万人	-	-	+	+	
1位 北海道	526万人	↑	2位 1,091万人	2位 1,134万人	1,066万人	-	-	+	+	
2位 東京都	430万人	↓	1位 1,447万人	1位 1,573万人	1,541万人	-	-	+	+	
3位 静岡県	373万人	↑	4位 665万人	4位 733万人	773万人	-	-	-	+	
4位 長野県	351万人	↑	5位 630万人	6位 693万人	702万人	-	-	-	+	
5位 神奈川県	347万人	↑	6位 584万人	5位 705万人	710万人	-	-	-	+	
6位 京都府	301万人	↑	7位 549万人	7位 623万人	637万人	-	-	-	+	
7位 大阪府	282万人	↓	3位 739万人	3位 809万人	775万人	-	-	+	+	
8位 兵庫県	275万人	↑	11位 457万人	11位 485万人	472万人	-	-	+	-	
9位 沖縄県	265万人	↑	10位 474万人	9位 533万人	540万人	-	-	-	+	
10位 千葉県	249万人	↓	9位 510万人	8位 619万人	553万人	-	-	+	-	
上位10位・計の構成比	46.9%		53.1%	53.6%	53.6%					
11位~20位・計の構成比	24.9%		24.6%	24.0%	24.2%					
21位以下・計の構成比	35.0%		29.8%	30.0%	30.0%					

■ ブロック別の延べ宿泊旅行者数増減 (2020年度 - 2019年度推計値)

単位 (万人)	旅行先ブロック								
	北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	甲信越・北陸ブロック	東海ブロック	関西ブロック	中四国ブロック	九州ブロック	沖縄ブロック
20年度	526	741	1,576	996	854	1,129	774	886	265
19年度	1,091	1,191	3,488	1,735	1,586	2,188	1,279	1,559	474
18年度	1,134	1,294	3,931	1,842	1,705	2,424	1,424	1,616	533
20年度-19年度	-565	-451	-1,912	-739	-732	-1,060	-505	-673	-209
居住地ブロック									
北海道ブロック	-120	-16	-100	-15	-19	-37	-13	-9	-15
東北ブロック	-43	-40	-243	-28	-25	-39	-23	-16	-6
関東ブロック	-218	-281	-357	-398	-392	-356	-172	-223	-96
甲信越・北陸ブロック	-17	-30	-207	-22	-55	-69	-30	-19	-7
東海ブロック	-51	-19	-288	-104	-36	-147	-54	-51	-32
関西ブロック	-64	-28	-322	-116	-125	-93	-159	-85	-34
中四国ブロック	-25	-20	-153	-30	-41	-184	10	-94	-17
九州ブロック	-29	-14	-209	-23	-34	-108	-53	-156	-14
沖縄ブロック	1	-2	-33	-3	-5	-25	-11	-19	11

※-100万人以上：網掛け白文字

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしているため、各県の延べ宿泊旅行者数の全体に対する構成比を足し上げると100%を超える

※1人あたり1年間に行った全ての旅行回数を尋ねた結果から推計している

■ 居住地別の県内旅行率ランキング (トップ10)

<ベース：各都道府県の居住者による旅行>

◇居住地内旅行率ランキング 単位：%

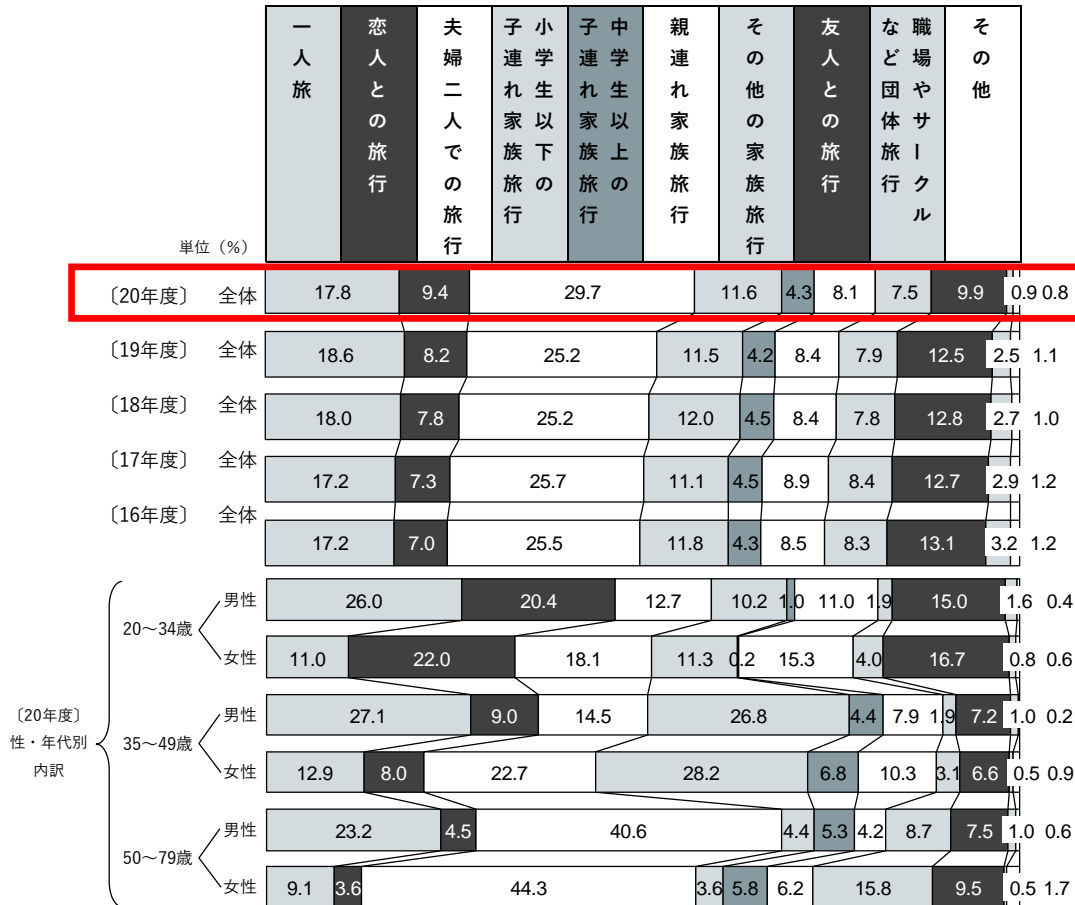
	20年度	19年度	18年度
1位 北海道	76.7	55.2	57.1
2位 秋田県	61.0	6.1	8.5
3位 岩手県	59.5	16.9	23.1
4位 沖縄県	55.2	22.3	24.7
5位 鹿児島県	49.9	14.6	17.1
6位 新潟県	48.1	16.3	17.3
7位 山形県	47.7	14.1	14.5
8位 長野県	42.7	19.6	16.7
9位 青森県	42.4	10.2	12.9
10位 熊本県	41.9	14.3	18.1

◇居住地内旅行率の増減差ランキング 単位：pt

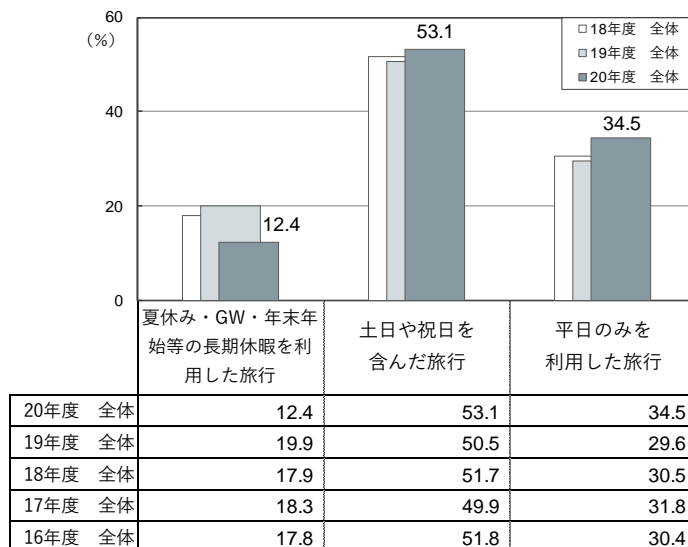
	2020年度←19年度	2020年度←18年度
1位 秋田県	+54.9	+52.5
2位 岩手県	+42.5	+36.4
3位 鹿児島県	+35.3	+32.8
4位 徳島県	+35.0	+34.6
5位 山形県	+33.6	+33.2
6位 沖縄県	+32.9	+30.5
7位 青森県	+32.2	+29.5
8位 新潟県	+31.8	+30.8
9位 鳥取県	+30.5	+31.7
10位 愛媛県	+30.1	+30.8

2020年度に実施された宿泊旅行のうち、「夫婦二人での旅行」が29.7%を占めた。次いで「一人旅」が17.8%、「小学生以下の子連れ家族旅行」が11.6%で続く。前年度と比較すると「夫婦二人での旅行」（+4.5pt）、「恋人との旅行」（+1.2pt）が増加傾向にあり、「友人との旅行」が2.6pt減少した。性・年代別にみると50～79歳で「夫婦二人での旅行」のシェアが高く、4割以上を占める。旅行日を見ると「夏休み・GW・年末年始等の長期休暇を利用した旅行」（12.4%）が7.5pt減少、「平日を利用した旅行」（34.5%）が4.9pt増加。旅行日の分散化が進んだ。

■ 宿泊旅行の同行形態（単一回答／1人あたり最大3回までの旅行件数）



■ 旅行日（単一回答／1人あたり最大3回までの旅行件数）



■ 特定のイベントやアクティビティに興味があったから

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	29.4	全体平均	33.4
1位 沖縄県	45.0	1位 千葉県	47.1
2位 大阪府	39.3	2位 沖縄県	45.3
3位 長崎県	38.2	3位 大阪府	43.2
4位 千葉県	38.1	4位 宮崎県	42.5
5位 東京都	34.7	5位 北海道	40.7
6位 北海道	33.6	6位 福岡県	40.0
7位 徳島県	33.0	7位 徳島県	38.9
8位 青森県	32.5	8位 長崎県	38.2
9位 茨城県	31.8	9位 東京都	37.9
10位 山梨県	31.5	10位 愛知県	37.6

■ テレビや雑誌などで話題になっていたから

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	21.3	全体平均	22.4
1位 沖縄県	33.1	1位 石川県	32.2
2位 長崎県	30.0	2位 長崎県	32.1
3位 北海道	27.9	3位 北海道	31.8
4位 青森県	27.2	4位 沖縄県	30.8
5位 大分県	26.0	5位 宮崎県	28.7
6位 京都府	24.9	6位 京都府	28.3
7位 福岡県	24.5	7位 島根県	27.9
8位 石川県	24.4	8位 徳島県	27.7
9位 大阪府	24.3	9位 三重県	27.3
10位 宮崎県	23.7	10位 青森県	26.9

■ 特定の観光地・観光スポットに興味があったから

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	63.1	全体平均	65.0
1位 長崎県	76.9	1位 島根県	81.4
2位 島根県	76.2	2位 沖縄県	78.2
3位 奈良県	75.9	3位 三重県	76.6
4位 沖縄県	72.2	3位 長崎県	76.6
5位 京都府	71.7	5位 京都府	76.5
6位 石川県	71.6	6位 徳島県	76.1
7位 三重県	71.5	7位 青森県	76.0
8位 徳島県	71.4	8位 奈良県	75.6
9位 青森県	71.2	9位 香川県	75.2
9位 広島県	71.2	10位 石川県	73.8

■ そこならではの食・特産品に興味があったから

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	46.7	全体平均	45.2
1位 石川県	64.2	1位 沖縄県	63.1
2位 高知県	61.3	2位 北海道	62.3
3位 沖縄県	58.2	3位 香川県	62.0
4位 北海道	57.9	4位 石川県	60.7
5位 広島県	56.6	5位 広島県	60.4
6位 香川県	56.1	6位 福岡県	57.2
7位 福井県	55.4	7位 高知県	56.7
8位 三重県	55.2	8位 鹿児島県	55.4
8位 佐賀県	55.2	9位 富山県	55.3
10位 福岡県	54.9	10位 山形県	54.7

■ 良い宿・ホテルがあったから

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	62.1	全体平均	51.6
1位 大分県	74.7	1位 大分県	70.0
2位 神奈川県	72.2	2位 栃木県	64.4
3位 群馬県	71.8	3位 静岡県	63.4
3位 静岡県	71.8	4位 福島県	61.9
5位 福島県	71.0	5位 兵庫県	60.4
6位 栃木県	70.4	6位 群馬県	60.2
7位 和歌山県	69.5	7位 千葉県	58.7
8位 兵庫県	66.8	8位 神奈川県	58.2
9位 熊本県	66.7	9位 熊本県	56.9
10位 佐賀県	66.6	10位 沖縄県	56.2

■ 魅力的な温泉があったから

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	44.1	全体平均	35.5
1位 群馬県	77.0	1位 大分県	79.8
2位 大分県	76.1	2位 群馬県	69.8
3位 栃木県	63.8	3位 愛媛県	62.6
4位 熊本県	63.3	4位 佐賀県	61.0
5位 佐賀県	62.4	5位 栃木県	60.3
6位 山形県	62.0	6位 福島県	59.4
6位 福島県	62.0	7位 熊本県	58.9
8位 岐阜県	61.8	8位 山形県	56.2
9位 和歌山県	59.6	9位 岐阜県	54.5
10位 秋田県	59.1	10位 鹿児島県	53.1

<ランキングの算出方法> ※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

- ① 訪問した旅行先を選んだ理由を「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の5段階から選択
- ② 「当てはまる」「やや当てはまる」計の割合が高い順にランキング

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

1位：石川県、2位：高知県、3位：福井県

石川県は4年連続1位。

トップ10はいずれも海あり県だが、魚介以外も人気。

1位の石川県は「のどぐろ」などの魚介に加え「能登牛」「近江町市場」などが人気。2位の高知県は半数以上が「かつお」を挙げているが「鍋焼きラーメン」「ひろめ市場」「皿鉢料理」なども。3位に躍進した福井県は「かに」などの海鮮に加え「越前そば」「ソースかつ丼」など。上位はいずれも海あり県だが、4位の宮城県は「牛タン」、6位の香川県は「うどん」、9位の山形県は「芋煮」など、バラエティーに富んだ食材や郷土料理が強み。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	63.7	全体平均	63.2
1位 石川県	80.0	1位 石川県	79.5
2位 高知県	78.8	2位 北海道	78.9
3位 福井県	74.6	3位 宮崎県	78.3
4位 宮城県	73.9	4位 山形県	77.2
5位 徳島県	73.8	5位 高知県	77.0
6位 青森県	73.6	5位 沖縄県	77.0
6位 香川県	73.6	7位 青森県	76.4
8位 北海道	73.3	8位 香川県	76.3
9位 山形県	73.0	9位 鹿児島県	75.5
10位 富山県	72.9	10位 福岡県	74.9

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

1位：沖縄県、2位：青森県、3位：石川県

沖縄県は16年連続で1位を獲得。

地元の食、工芸品、スイーツなど上位は多彩な品揃え。

1位の沖縄県は「ちんすこう」「紅芋タルト」「海ぶどう」など沖縄ならではの土産が人気。2位の青森県は「りんご」や加工品、海産物など食が中心だが「こぎん刺し」「金魚ねぶた」なども。3位の石川県は「金箔製品」「魚介類」「日本酒」などに加え「加賀友禅」「九谷焼」などの工芸品、話題の洋菓子店など多岐にわたる。4位の高知県、7位の徳島県、8位の宮城県、山形県が新たにランクイン。いずれも上位の県は地元の食材や工芸品、新しいスイーツなど多彩なラインナップを揃えている。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	52.0	全体平均	52.3
1位 沖縄県	65.9	1位 沖縄県	72.1
2位 青森県	64.9	2位 北海道	66.7
3位 石川県	64.0	3位 鹿児島県	66.3
4位 高知県	63.4	4位 京都府	65.8
5位 北海道	61.8	5位 石川県	65.7
6位 長崎県	59.9	6位 青森県	64.5
7位 徳島県	59.3	7位 広島県	63.9
8位 宮城県	59.1	8位 宮崎県	62.3
8位 山形県	59.1	9位 熊本県	62.0
8位 宮崎県	59.1	10位 長崎県	61.4

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

1位：沖縄県、2位：大分県、3位：神奈川県

沖縄県が6年ぶりに1位を奪還。

佐賀県や静岡県、鹿児島県が新たにベスト10入り。

満足度は全体平均で5.6pt上昇。1位の沖縄県は2014年度以来、6回目の1位。2位は大分県で、この2県が調査開始以来、1位と2位を競っている。沖縄県は高級リゾートホテル、大分県は温泉旅館・ホテルなどの名前が挙がっている。ほか、7位の佐賀県、9位の静岡県、10位の鹿児島県が圏外からランクイン。全体としては温泉やリゾートを擁するエリアが上位に挙がる傾向がみられ、特に老舗旅館や高級リゾートは具体的な宿名が挙がるケースが多い。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	52.1	全体平均	46.5
1位 沖縄県	63.6	1位 大分県	68.4
2位 大分県	61.9	2位 沖縄県	63.0
3位 神奈川県	61.1	3位 北海道	54.0
4位 群馬県	60.3	4位 兵庫県	52.9
4位 和歌山県	60.3	5位 和歌山県	52.7
6位 熊本県	58.7	6位 石川県	52.6
7位 佐賀県	58.0	7位 熊本県	52.4
8位 北海道	57.4	8位 群馬県	52.0
9位 静岡県	56.8	8位 千葉県	52.0
10位 鹿児島県	56.5	8位 神奈川県	52.0

■ 地元の人ホスピタリティを感じた

1位：沖縄県、2位：宮崎県、3位：北海道

沖縄県は16年連続1位。

中国地方から島根県がランクイン。

1位の沖縄県は16年連続の1位、2位の宮崎県は2年連続。5位の秋田県、6位の徳島県、10位の島根県が圏外からランクイン。例年、方言が印象的な東北や九州勢が強い傾向がある中、今年は10位に島根県が入った。上位に挙がる県は宿や観光施設のスタッフの評価が高いことに加え、体験アクティビティのスタッフのコミュニケーションや、一般の人が親切・フランクである、商売っ気がなく好感が持てる、などの声が挙がっている。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	27.7	全体平均	26.6
1位 沖縄県	45.2	1位 沖縄県	47.9
2位 宮崎県	34.4	2位 宮崎県	42.2
3位 北海道	33.4	3位 山形県	38.4
4位 山形県	32.8	4位 鹿児島県	35.3
5位 秋田県	32.6	5位 香川県	34.1
6位 徳島県	32.5	6位 北海道	33.9
7位 青森県	32.0	7位 熊本県	32.5
8位 福島県	31.3	8位 青森県	32.3
9位 熊本県	31.2	9位 石川県	32.1
10位 島根県	31.1	10位 福島県	31.2

■ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：和歌山県

1位の千葉県は16年連続。
ベスト3は13年連続で順位の変動なし。

1位～3位の順位は2008年度から変化がなく、テーマパークや水族館、ビーチなどが人気の要因。7位の大分県、8位の栃木県、9位の茨城県、10位の徳島県が圏外からランクイン。大分県は温泉を利用したプールやテーマパーク、地獄めぐりの名前も挙がる。栃木県は動物系のテーマパークが人気。茨城県、徳島県は自然豊かな公園や観光スポットが人気だ。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	24.2	全体平均	25.3
1位 千葉県	43.4	1位 千葉県	53.9
2位 沖縄県	37.9	2位 沖縄県	44.3
3位 和歌山県	34.5	3位 和歌山県	40.5
4位 大阪府	31.3	4位 長崎県	35.1
5位 三重県	30.9	5位 大阪府	31.5
6位 長崎県	30.8	6位 三重県	31.3
7位 大分県	28.1	7位 宮崎県	30.8
8位 栃木県	27.9	8位 北海道	29.6
9位 茨城県	27.3	9位 福井県	28.8
10位 徳島県	26.5	10位 山梨県	28.1

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：沖縄県、2位：千葉県、3位：大阪府

沖縄県が3年ぶり2度目の1位。
ショッピングやニューオープンの施設などが人気。

上位3府県の顔ぶれは2005年度から16年間変化なし。沖縄県ではマリナクティビティやショッピングスポットなどが人気。2位の千葉県はテーマパークやアウトレット、3位の大阪府はテーマパークに加えて繁華街で街歩きを楽しんでいる様子。新たにランクインした7位の三重県は参道の街歩きやサーキット、8位の和歌山県はテーマパークやビーチ、10位の香川県はニューオープンの水族館などが挙げられている。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	26.3	全体平均	28.6
1位 沖縄県	48.4	1位 千葉県	52.5
2位 千葉県	41.1	2位 沖縄県	51.2
3位 大阪府	38.1	3位 大阪府	40.9
4位 長崎県	31.9	4位 長崎県	35.5
5位 東京都	31.8	5位 東京都	35.3
6位 北海道	30.1	6位 和歌山県	34.5
7位 三重県	29.2	7位 宮崎県	33.7
8位 和歌山県	29.0	8位 北海道	32.6
9位 福岡県	28.7	9位 福岡県	30.9
10位 香川県	27.6	10位 神奈川県	30.0

(単位：%)

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：沖縄県、2位：京都府、3位：三重県

沖縄県は5年連続で1位。テーマパークや水族館に加えクルーズや体験などのアクティビティが多く挙がる。

1位の沖縄県はビーチや水族館に加え、居酒屋やバーなどナイトスポットも挙がっている。マリンスポーツも人気。2位の京都府は神社仏閣巡りや川下り、酒蔵巡り、着物体験など和の体験を楽しんでいる。3位の三重県は神社参拝や水族館などのテーマパークに加え、真珠取り出し体験やクルーズなど、上位に挙がる府県は体験コンテンツが充実しているようだ。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	39.7	全体平均	42.5
1位 沖縄県	52.5	1位 沖縄県	59.1
2位 京都府	52.0	2位 千葉県	55.3
3位 三重県	46.5	3位 京都府	52.6
4位 長崎県	45.8	4位 宮崎県	50.1
5位 千葉県	45.6	5位 長崎県	49.2
5位 徳島県	45.6	6位 奈良県	47.6
7位 石川県	45.0	7位 石川県	47.3
8位 奈良県	44.8	8位 鹿児島県	46.7
9位 山梨県	44.3	9位 和歌山県	46.6
10位 和歌山県	43.9	10位 北海道	46.1

(単位：%)

■ 現地で良い観光情報を入手できた

1位：沖縄県、2位：京都府、3位：石川県

ホテルや観光地など従来の情報手段に加えインターネットやSNSという意見が増加。

ホテルや飲食店、観光地、観光案内所、パンフレットなどの情報収集手段に加え、インターネットやSNSなどが増加する傾向にある。1位の沖縄県は地元の人からの情報、2位の京都府は「どこでも情報が手に入りやすい」などのコメントも。新たにランクインしたのは4位の徳島県や8位の島根県、9位の山梨県。

(単位：%)

2020年度 順位		2019年度 順位	
全体平均	27.2	全体平均	28.4
1位 沖縄県	42.0	1位 沖縄県	46.1
2位 京都府	35.7	2位 宮崎県	40.3
3位 石川県	33.4	3位 青森県	38.3
4位 徳島県	33.3	4位 北海道	36.4
5位 青森県	32.7	5位 石川県	36.0
5位 香川県	32.7	6位 京都府	35.7
7位 北海道	31.7	7位 香川県	35.3
8位 島根県	31.3	8位 鹿児島県	35.2
9位 山梨県	31.2	9位 長崎県	33.2
9位 長崎県	31.2	10位 富山県	32.9

■ ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた

1位：沖縄県、2位：山梨県、3位：和歌山県

沖縄県が2位に7.6ptの差をつけて1位を獲得。
地域の自然景観を活用したアクティビティが人気。

1位の沖縄県はシュノーケリングや釣りなどのマリンスポーツが多く挙がる中、水牛車や離島を巡るツアーなどの回答もみられた。2位の山梨県は温泉に加えフルーツ狩りやバーベキュー、富士登山などアウトドアが人気。5位の北海道はスノーアクティビティや知床クルーズ、乗馬体験、7位の青森県は奥入瀬渓流のハイキング、8位の群馬県はラフティング、同8位の長野県は星空観測などが特徴的。

※「ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた」の項目は今年度（2020年度）調査より新設

(単位：%)

2020年度 順位	
全体平均	33.8
1位 沖縄県	51.8
2位 山梨県	44.2
3位 和歌山県	41.7
4位 徳島県	40.0
5位 北海道	39.1
5位 大分県	39.1
7位 青森県	39.0
8位 群馬県	38.9
8位 長野県	38.9
10位 福島県	38.3

■ 総合満足度

1位：沖縄県、2位：福井県、京都府

1位の沖縄県は91.6%が満足したと回答。
上位10府県はいずれも9割近い満足度を獲得。

テーマ別でも上位に多く入った沖縄県が1位を獲得。2位の福井県は「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」で3位と高評価を得て2位に入った。2位の福井県、6位の山梨県、岐阜県、10位の宮城県が新たにランクイン。

(単位：%)

2020年度 順位	
全体平均	85.8
1位 沖縄県	91.6
2位 福井県	89.0
2位 京都府	89.0
4位 石川県	88.9
5位 北海道	88.8
6位 山梨県	88.7
6位 岐阜県	88.7
8位 和歌山県	88.3
9位 大分県	88.2
10位 宮城県	88.0

(単位：%)

2019年度 順位	
全体平均	84.8
1位 沖縄県	93.1
2位 宮崎県	89.5
3位 京都府	89.3
4位 高知県	89.2
5位 北海道	89.0
5位 香川県	89.0
7位 石川県	88.5
8位 鹿児島県	88.4
9位 大分県	88.3
10位 兵庫県	88.1
10位 和歌山県	88.1

<ランキングの算出方法> ※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択

②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が高い順にランキング

③総合満足度においては「とても満足」「やや満足」「ふつう」「やや不満」「とても不満」のうち、「とても満足」「やや満足」計の割合が高い順にランキング

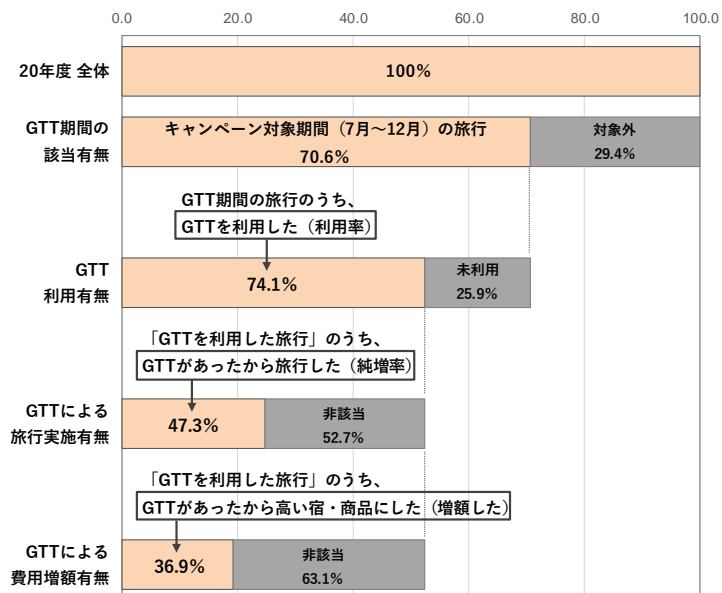
<コメントの回答方法> 「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入

※対象設問：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「地元の人へのホスピタリティを感じた」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「現地で良い観光情報を入手できた」「ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた」

Go Toトラベルキャンペーン（GTT）の期間中に実施された旅行のうち、キャンペーンを利用した旅行は7割超であった。さらに利用者のうち「GTTがあったから旅行した」と回答した人は47.3%、「GTTがあったから高い宿・商品にした（増額した）」人は36.9%であった。その増額した金額については、「1万～1.5万円未満」が最も多く26.4%、「5千～6千円未満」が24.3%で、平均すると1万1,900円となった。

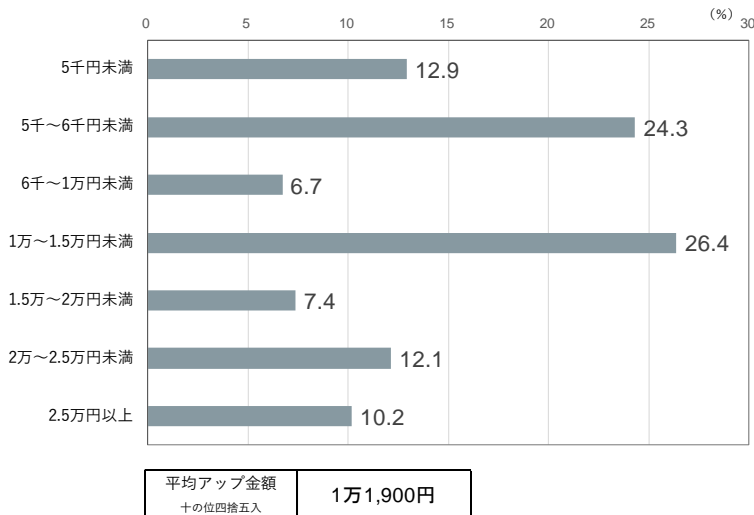
■ Go Toトラベルキャンペーンの利用実態

<ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>



■ Go Toトラベルキャンペーンによる増額（大人一人1回あたりの旅行）

<ベース：「GTTがあったから高い宿・商品にした（増額した）」回答者のうち、有効回答者のみ>



リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万5,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2019年度の売上収益は2兆3,994億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここがない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.co.jp/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>